



森 絵都/作  
吉田 尚令/絵  
岩崎書店  
2014年 ¥1500

## 希望の牧場

オレ牛飼いだから、牛と共にここにいる。  
福島第一原発 20 キロ圏内<sup>けんない</sup>で取り残された  
「希望の牧場・ふくしま」という牧場が  
描<sup>えが</sup>かれている。人間の都合<sup>ごっごう</sup>に振り回され、  
この地<sup>このち</sup>で懸命<sup>けんめい</sup>に牛たちを守るが、文字どお  
り本当に希望はあるのかと問うている。



ヘルム・ハイネ/作・絵  
天沼 春樹/訳  
徳間書店  
2004年 ¥1300

## きみがしらない ひみつの三人

きみが生まれた日、3人の友達はやってきた。人が生まれて死んでいくまでの、頭と心と体の働きを、やさしい絵と温かい言葉で分かりやすく描いた絵本。ずっと自分に寄り添<sup>よ</sup>ってくれる3人の友達のことを、節目節目で思い出してほしい。

## ヒワとゾウガメ

島に1頭しかいないゾウガメは、百年も生きる。今までたくさんの友達を見送ってきた寂<sup>さび</sup>しさから、もう友達はいらないうちで死んでしまった。そんなゾウガメのために、ヒワが長生きする仲間を探しに海を渡ろうとするが…。身近にいる大切な存在に気付かせてくれる作品。



安東 みきえ/さく  
ミロコマチコ/え  
佼成出版社  
2014年 ¥1300

## ルピナスさん

ルピナスさんは子どものころ、おじいさんと三つの約束をしました。大きくなったら遠い国に行く、おばあさんになったら海のそばの町に住む、そして世の中をもっと美しくするために何かする。みなさんなら何をするか、考えてみてほしいですね。



バーバラ・クーニー/さく  
かけがわ やすこ/やく  
ほるぷ出版  
1987年 ¥1300



加藤 久仁生/絵  
平田 研也/文  
白泉社  
2008年 ¥1400

## つみきのいえ

海面がどんどん上がってくる町に住むおじいさんの家は、上へ上へと建て増しをしていき、つみきのような家となりました。潜ると、当時住んでいた時の記憶<sup>きおく</sup>を思い出していき…。とても優しい気持ちになる本です。英語版も出版されています。

現在購入<sup>こうにゆう</sup>できる版の出版年を掲載しています。  
価格は2021年2月現在の本体価格です。

掲載については出版社の許諾<sup>きょだく</sup>を得ています。  
無断で転載することを禁じます。



2021年3月発行  
大洲市立図書館



図書館司書  
おすすめ

子供とともに 本をひらこう 未来のページ  
(「第2次大洲市子供読書活動推進計画」より)

中学生版



# うちどく絵本リスト

毎月第3日曜日は“うちどくの日”

「うちどく(家読)」とは、家族で同じ本を読み、その本について話し合うことです。  
「うちどく」で家族のきずなを深めましょう！



●うちどくをはじめるなら、まずは絵本がおすすめ！●

絵本は短い時間で読める上に、文章や絵、読む年齢ねんれいによっても様々な感想を持てるので、幅広い年代が一緒に読む「うちどくの本」として最適です。そこで、図書館司書が家族で読んでほしい絵本をおすすめします。



高山 なおみ/作  
つよし ゆうこ/絵  
あかね書房  
2020年 ¥1800

## ふたごのかがみ ピカルとヒカラ

ふたご  
双子の鏡の兄・ピカルが今の暮らしに満足している一方で、妹のヒカ月は見たことのない外の世界が気になります。ある日ついに家を飛び出したヒカ月を、心配なピカルが追いかけて…ふたりのたどり着く風景が切なく美しい物語です。



湯本 香樹実/文  
はた こうしろう/絵  
講談社  
2019年 ¥1400

## あなたが おとなになったとき

あなたがおとなになったとき、あなたは何かを見たり聞いたりしているのだろうか。そしてあなたは何かを感じ、どんな選択せんたくをしながら人生を歩いていくのだろうか。思春期入り口のこの時期に、親子で一緒に読んで話してほしい。



早見 和真／文  
かのう かりん／絵  
愛媛新聞社  
2019年 ¥1800

## かなしき<sup>ねこ</sup>デブ猫ちゃん

道後に住む飼猫マルは新しく家に来たメス猫にやきもちを焼いて家出。ひょんなことから県内各地を回って冒険することに！松山在住の早見さんと今治出身のかのうさんがタッグを組んだ『愛媛新聞』土曜日版に連載されている作品の書籍化。



たにかわ しゅんたろう／ぶん  
Noritake／え  
ブロンズ新社  
2019年 ¥1200

## へいわとせんそう

『わたし』『もこもこもこ』など数多くの絵本を手掛けた谷川俊太郎さんと、新進気鋭のイラストレーターNoritakeさんによる平和絵本。後半にかけての平和と戦争の「違い」を考えてみてください。

## なんだろう なんだろう

哲学的だけど、ふと考えてしまう身近な疑問について、ヨシタケ流に解釈していく。同じ問いに対して自分はどうか考え、また他の人とはどう違っているのだろうか。話し合えば、きっと自分一人では思いもよらない考えに出合えるかもしれないね。



ヨシタケ シンスケ／著  
光村図書出版  
2019年 ¥1500

## まどのそと 怪談えほん 11

怪談のエキスパート・東雅夫編集「怪談えほん」シリーズの一冊。風もなく地震でもないのに、かたかたかた…と鳴り続ける窓。なにもなく淡々と進むお話と、どこかちぐはぐな挿絵にじわじわと恐怖をかきたてられます。



佐野 史郎／作  
ハダ タカヒト／絵  
東 雅夫／編  
岩崎書店  
2019年 ¥1500



ジェル・シルヴァスタイン／作  
村上 春樹／訳  
あすなる書房  
2019年 ¥1500

## はぐれくん、おおきなマルにであう

自分は、自分より大きなだれかのかげらだと思っているはぐれくん。そのだれかが通りかかるのを待っていたとき、おおきなマルがあらわれて…。理想の自分や、人との関係に悩んだときに読みたいお話です。



きねふち なつみ／作  
真鍋 真／監修  
ジョン・フルタン／監修  
あすなる書房  
2019年 ¥1500

## もし地球に植物がなかったら？

植物の進化の歴史を書いています。植物プランクトンと考えられるシアノバクテリアが酸素をつくり、そしてオゾン層に変化して…。長い時の中で植物と動物がお互いに作用しながら進化していきます。植物すごいです。

## せかいいちのいちご

ある日シロクマの元に届いた一粒<sup>つぶ</sup>のいちご。生まれて初めてのいちごに大興奮！でもいちごは毎年届くようになり、しかも年々数も増えて…。慣れることによって忘れかけていたものに気付いてドキリとします。



林 木林/作  
庄野 ナホコ/絵  
小さい書房  
2018年 ¥1800

## 絵本<sup>ねむ</sup>眠れなくなる宇宙のはなし

宇宙はどこまで続くのだろう、どうやってできたのだろう…。謎が多く魅力的な“宇宙”という存在。古代エジプトから現代まで、天文学の歴史がわかりやすく描かれています。今夜は眠れなくなるかも。元になった書籍<sup>しよせき</sup>も併せてどうぞ。



佐藤 勝彦/作  
長崎 訓子/絵  
講談社  
2016年 ¥1500

## おじいちゃんとパン

食パンに甘いものを塗<sup>ぬ</sup>って食べるのが大好きなおじいちゃんと、そんなおじいちゃんが大好きな孫の「ちびすけ」。おじいちゃんが食べるパンは、どれもおいしそうなものばかり。おうちで真似<sup>まね</sup>して作ってみました。



たな/え・ぶん  
パイインターナショナル  
2017年 ¥980

## わたしのせいじゃない せきにんについて

学校の教室で泣いている男の子がいます。みんなは「みてるだけ」だったり「みんながやったから」と言い訳しますが…。無責任や無関心は何を生むのでしょうか。いじめ問題を考える絵本。1996年刊の大型版。



レイフ・クリスチャンソン/文  
にもんじ まさあき/訳  
ティック・ステンペリ/絵  
岩崎書店  
2017年 ¥1800

## リヤカーマンって知ってるかい？

リヤカーを引きながら歩いて世界を旅する永瀬忠志さんの本です。アフリカ大陸<sup>ながせただし</sup>徒歩横断<sup>とほ</sup>といった、途方もないことに挑戦<sup>とほ</sup>しています。歩いて旅をするからこそ「一歩」踏み出すことの重み、大切さが伝わります。



永瀬 忠志/写真と文  
少年写真新聞社  
2016年 ¥1400

## きみへの おくりもの

大好きな人に喜んでほしいという気持ち。大好きな人にそう思ってもらっているということ。たとえ、うまくいかなくても、その気持ちだけで温かくうれしくなります。ロマンチックな絵が話にぴったりの。



刀根 里衣/著  
NHK 出版  
2015年 ¥1400